

第7回鹿野地域振興会議議事概要

日 時：平成31年1月17日（木） 午後1時30分～午後3時53分

場 所：鹿野町総合支所2階 会議室

【出席委員】

山田薫、小川義和、山本章、筒井洋平、田中文子、向井健太郎、山下直司、兼平恵、伊井照幸、砂川重雄、佐々木千代子、池原美穂 以上12名出席（敬称略）

【欠席委員】

なし

【事務局】

徳岡支所長、乾副支所長兼地域振興課長（併教育委員会事務局鹿野町分室長）、岡田産業建設課長、上野市民福祉課長、三谷地域振興課長補佐

【交通政策課】

高野課長補佐、田中主任

【傍聴者】

村上鹿野公民館長、高木勝谷公民館長、小林小鷲河公民館長、小林鹿野学校応援団学習支援部長、日本海新聞社 計5名

【日 程】

1 開 会

2 会長あいさつ

3 報 告

（1）行事予定（資料ダウンロード）

（2）鳥取地どり「ピヨ」の生産販売を行う新会社の設立について（資料ダウンロード）

4 鹿野学園6年生によるグループ発表（資料ダウンロード）

（1）6年生が考える鹿野まちづくり大作戦

5 議題

（1）公共交通（気高循環バス）について（資料ダウンロード）

（2）委員質問（資料ダウンロード）

① 防災行政無線の緊急情報について

② 地域内情報伝達設備整備事業について

6 その他

○次回開催日 2月21日（木）15：00～

7 閉会

◎議事概要

報告事項

(1) 経過報告

事務局より資料1に基づき説明

(2) 鳥取地どり「ピヨ」の生産販売を行う新会社の設立について

事務局より資料2に基づき説明

【委員】 有限会社ひよこカンパニーは、大江の郷とかで卵などを食べられるが、新会社はどこで販売されるのか。

【事務局】 大江の郷自体は卵やスイーツなどを施設で販売するほか、ネット販売も展開しています。この新会社でも通信販売を展開されるなど今後を期待しています。

【委員】 ピヨの卵はないのか。

【委員】 ピヨはあくまでも食肉であるため卵はない。

鹿野学園6年生によるグループ発表

(1) 6年生が考える鹿野まちづくり大作戦

鹿野学園6年生により資料3の順にグループ発表

①「期間限定 ウマモナドカードラリー企画」

A1 グループ発表

【委員】 カードラリーでカードを集めるという事だったが、集めて全て揃ったら何かプレゼントはないのか。

【生徒】 そういう事も考えている。ウマモナドやカードなどが全部もらえると、鹿野にそった景品を考えている。

②「鹿野を伝える!! ～道の駅でPRしよう～」

B2 グループ発表

【委員】 ゆるキャラの大きなマスコットのぬいぐるみの中に人が入るようなのを考えたら楽しくなると思うがどうだろうか。

【生徒】 費用的に難しい。

③「四季かおる町へ～観光客が集うために～」

A2 グループ発表

④「鹿野の特ちょうを生かした町」

B 3 グループ発表

【委員】桜フェスティバルやもみじフェスティバルなどすごくいい考えだと思う。カレンダーは誰が作るのか。また、もみじの天ぷらは美味しいか。

【生徒】カレンダーは僕たちが作る。もみじの天ぷらはそれなりの味付けをする。

【委員】カレンダーの内容はどういう絵柄を考えているか。

【生徒】鹿野の景色とかを写真に撮ってキャラクターなども入れてPRしようかと思っている。

⑤「観光客UP大作戦」

B 4 グループ発表

【委員】皆さんのように元気な人は登れるが、城山にスタンプを置くのは登るのがすごくえらいのではないかと思うがどうか。

【生徒】城山神社の方だったら登れるかと思う。

【委員】私たちもよく登り、以前は町が一望出来ていたが今は木が高く成長し町が見えなくなっている。ひとつ提案だがそこをまずは何とかして欲しい。頂上に登ったことはあるか。

【生徒】城山神社の方は登ったことはある。

【委員】城山神社の方は1か所見えるところがある。良い案だと思うが頂上に登ったら鹿野は全然見えない。

【生徒】その件は、頂上の木を少しだけ切り倒してその木でやぐらを建て少し高い位置から見えるようにしたら良いと思う。

⑥「みんなが知っている 観光地にするため」

A 4 グループ発表

【委員】配ろうとしているポスターの文章を読んでみて欲しい。

【生徒】春に咲く桜はお堀に映りとてもきれいに見えます。桜は学校の近くに沢山咲いています。4月の中頃から5月初めが見頃です。ぜひ見てください。お堀に映る夜の桜です。とてもきれいです。鷲峯山が鹿野で一番高い山です。夏は葉が緑でとてもきれいです。秋は紅葉がきれいです。夏と秋と見頃が長いです。是非見てください。鹿野の城下町でスタンプラリーを行います。商品もあるので是非来てください。

⑦「町作りが盛んな街」

B 1 グループ発表

【委員】 銀杏が嫌いなのだが何か替わりになるものを考えてください。

⑧「～世代をこえて 笑いがたえない町～」

A 3 グループ発表

【委員】 コーヒーを飲むならどんな場所がいいと思うか。

【生徒】 鳥の劇場である。

【委員】 ちなみにしかの心のコーヒーも布施の名水で作っている。

委員感想

【委員】 観光客を増やすことが主になっていた発表が多かったが、鹿野の住民を増やす考えは浮かばなかったのが少し残念であった。アイデアはすごく良かった。

【委員】 どれくらいの時間をかけて準備をされたのか。

【先生】 6年生の国語の教科書に社会的視野で考えるまちづくり、コミュニティデザインを考える教材が入ってきている。その中で他県等の取り組みを聞いたりし、鹿野を題材に子どもたちの考える鹿野まちづくりとした。観光に偏った部分が有ったが、教材を読み解く時間は4から5時間、話し合いをもち書き上げて仕上げるのに5から6時間である。子どもたちでプレゼン発表もし、生徒間での意見交換もした。

【委員】 子どもたちが考えたアイデアが実際に実現していけば大人にとっても意味のあることだと思った。

【委員】 共通して鹿野の観光アップを考えた発表だった。中には大人も巻き込まないと実現出来ないことがあった。インターネットであるとか、何か作るにしてもお金がいることで子どもたちだけで出来ない。しかしその考えをもってこれから皆さんの考えが主になっていくと思うので、鹿野のことをいろんな角度で考えて大人も巻き込んで鹿野の魅力アップをお願いしたい。

【委員】 とってもいい提案が沢山出ていた。観光客を呼び込む着眼点が多く出ていたが、例えば鹿野は農業地帯なのでよそには無い作物を作ってアピールするとか、祭りをアピールするなど、住民自体が鹿野を自分たちで楽しむようなことも考えてみたらいいのではと思った。

【委員】 大変貴重な意見を伺った。子どもの発想は大人と違って視点が違うと感

じた。少しだけ残念だったのは、同じような意見が多かったので、農業とか産業、町おこしとか一つのテーマに絞るのではなく多角的に鹿野を良い街にしていく視点で考えて欲しかったと思う。

【委員】鹿野の問題点を子どもの視点でほぼ共通した内容があがっていた。城山のスタンプラリーとかカードラリー、またカレンダーなど子どもながらの発想で鹿野を盛り上げたいという思いが良く伝わってきた。

【委員】町外の人が鹿野を知らないという意見が多かった。私も結構頑張ってきたはずなのに知らない人がまだいるということはもっと我々も頑張っていけないといけないと思った。少子高齢化が進んでいると言われたグループが多かったし、今後もっと厳しい世の中になっていくと思うので、皆さんが鹿野に残って鹿野を盛り上げてくれればこの問題も何とかなるのではないかと楽観的に考えることが出来た。また、何点か具現化できることもあった。

【委員】最初の6年生代表のあいさつで「鹿野を盛り上げる参考にして下さい。」と言われた。この鹿野地域振興会議は、鹿野を盛り上げるにはどうしたらいいか話し合う会なので皆さんの発表されたことを参考に今後話し合いをしていきたい。発表の中で「もみじの天ぷらは美味しいですか」と質問したが、もみじの天ぷらは私も何回も天ぷらにして食べたので美味しい。今はもみじの時期ではないが、是非食べて欲しい。それから銀杏大福を作って食べてみたいと思った。本当に良い発表を聞かせていただいた。これからも頑張っていたきたい。

【生徒】今日まで準備してきた。大人の方に聞いていただいてうれしかったし、感想も沢山いただけた。私たちは緊張したけど最後までやり遂げられたので良かった。発表を聞いていただけて良かった。

【先生】子どもながらに考えた夢物語りがあったと思うが、それも大切なのかなと思う。子どもたちが将来鹿野に残って鹿野を盛り上げてくれることを望んで今日の発表を終わりたい。

議題

(1) 公共共通（気高循環バス）について

交通政策課より資料4に基づき説明

【委員】平成31年度はバス2台体制ということで人員体制が少なくなるため、減便は止むを得ないという感じはしている。ダイヤのことについては、やってみ

ないと分からないところもあるが、平成32年度から会社として運営が出来なくなるという事であれば、別の方法を考えていかなければならない。そのあたりは全然協議されていないのか。

【交通政策課】今現在の平成31年度の事までで、それ以降につきましてはまだ検討が出来ていないのが現状です。今後情報交換して進めていきたいと思えます。

【委員】鹿野に限った事ではないと思うが、日南町に視察に行った時も日南町独自のやり方で運営しておられた。追々にこれから検討していかなければと思っている。その時は協力をお願いしたい。

【事務局】前回のこの会で鹿野地域として例えば将来住民運営の可能性はないかといった研究をしてみたいとお話ししたと思えます。現在それに向けていろいろな資料を収集しているところです。準備ができ次第皆さま方にも協力ご支援をお願いして研究検討を進めていきたいと思えます。今後将来まだまだ人口が減っていく中で住民が自ら運営に関わっていく体制も将来可能性があるのではと思っています。

【委員】先程交通政策課の担当者が話された内容で、網掛け以外の時間帯について2便で運行すると通学バスの河内線で学校に到着するのが7時14分というのがあるが、現在のダイヤより20分くらい早い到着となる。今でも小鷲河地域の子どもたちは、学校に1番に着いて授業が始まるまでにひと汗もふた汗もしっかり遊ぶ時間があるようだ。今回の提案はそれよりも20分も学校に着くのが早い。こういう設定しないと次の宝木小学校に出発する便と連動しているため、宝木小学校の通学バスに間に合う時間ということで2便を兼ねることもあり難しい部分もあると思うが何とか工夫して検討して欲しい。朝7時に家を出させることになると親が送ってしまうことにもなり、誰もバスを利用しなくなる可能性もある。家にまだ送る人がいる場合は良いが、誰も対応できない家庭もある。そのあたり考慮して欲しい。

【委員】小学校はいつ頃始まるのか。

【事務局】8時20分頃になります。

【委員】宝木小学校はもっと遅くても授業に間に合うのではないか。

【事務局】列車の接続等の関係でそうなっています。

【委員】汽車通学の子どももある。

【委員】宝木小学校の循環バスをよく見るが、小学生しか乗車していないように見受けられるが。

【委員】そのあたりのデータをとり調査して、影響が少ないのが良い。一番良いのは誰も犠牲にならないのがいいのだが、朝7時は可哀想である。

【委員】学校が開錠してない場合もあるのではないか。朝の5分は非常におおきい。朝7時はまだ暗い。

【委員】学校が開いていないとなると、子どもはどんな思いか。〇〇地域に住みたくないか。そうなってくる。

【委員】平成31年度のスタートまでにはまだ時間があるので調査していただいて是非配慮していただきたい。

(2) 委員質問

① 防災行政無線の緊急情報について

【委員】確認ですが、現在の防災無線の正式名称は「鳥取市防災行政無線」で良いか。「緊急」はつかないで良いか。

【事務局】はい。「緊急」はつきません。

【委員】鳥取市が緊急で流している今の防災行政無線の内容は、告知端末などで放送されているが、鹿野は流れているか。

【事務局】昨年から順次申請して頂いたところは設置され流れています。

【委員】設置されていないところがまだかなりある。後は緊急非常時とかそういう時に外のスピーカーを通じて放送があると思うが、この緊急時の定義は何をもって放送されるのか。

【事務局】緊急放送の定義は、避難に関する情報、自然災害の避難、国民保護（テロ等）など命に係わる事態に関する放送です。例えば熱中症、行方不明者なども防災行政無線で流しています。

【委員】地震被害がよく携帯に入ってくるがそれはどうか。Jアラートの「地震が来ます。」のようなことである。

【事務局】それも流れます。

【委員】去年の10月21日に友だちと外で話していたが、風もなく天気も良いさわやかな日に防災無線が流れたが放送が全く何を言っているのかわからなかった。鹿野総合支所に電話をしたら「Jアラートの試験でした。」との返事であっ

た。以前この会議でも聞こえないといことで話が出たが、やはり地元でも聞こえなかった。聞こえ過ぎる地域もあるとは思いますが、やはり緊急の場合は、聞こえ過ぎるぐらい聞こえないと防災無線の役目が果たせないのではないか。設置場所の周辺の調査結果はどうだったか。状況は把握されているのか。

【事務局】赤い●印から線が伸びていて数字が書いてあるのが元の音の大きさのデシベルです。測定結果では、例えば紺屋町あたりのサイレンの音ですが、水谷の弁天さんのところに拡声器がありそこから発した音が紺屋町に向かっています。測定結果は、70デシベルでした。これはサイレンの音でのことです。

【委員】昼や夕方のチャイムの音は良く聞こえるが、今まで流れた言葉は、内容が伝わってこない。せっかく設置されているのに音を大きくしたり本数を増やしたりしないと役員からも残念の声が出ている。検討をお願いしたい。

【事務局】FMラジオ放送を活用した防災情報の提供（防災行政無線の放送内容をラジオで提供する仕組み）を検討しています。

【委員】音がなっていることは分かるが何を言っているか内容が聞き取れない。

【委員】この試験は屋外での判定か。

【事務局】そうです。

② 地域内情報伝達設備整備事業について

【委員】集落有線放送を使った補助制度について出前説明会で自治会長に説明があったと新しい自治会長からも聞いたが、自治会長自身も理解不足で再度来てもらって説明を聞きたいということになった。新たな制度などもう一度説明して欲しい。

【事務局】今までは、ケーブルテレビの通信線を活用して情報が流れる「音声告知専用端末」を希望世帯に設置する補助メニューがありました。今年4月1日にスタートする新たなメニューとして「音声告知専用端末」の放送を、集落有線放送に流す仕組みが加わります。具体的には「音声告知専用端末」の放送にあわせて有線放送設備の電源をオン、オフする「中継機器」が補助対象となります。町内には25集落の有線放送があるようですが、実際は集落の有線放送の機器内容を試験してみないと流すことが出来るかどうか分からないようです。町の電気屋さんなどに確認していただくこととなりますが、中継機器や有線放送設備の維持管理については、集落で行います。

【委員】全戸に有線放送がある集落がこの事業をする場合、集落の町内会の公民館として払うお金は15万円でしょうか。

【事務局】そうです。そのうち補助が5万円程度出るイメージです。

【委員】集落が10万円出せばよいということで、個人負担はあるのか。

【事務局】集落としての申込になるので集落でのお支払になると思います。あとは固定費として使用料で600円（※CATV月額利用料500円・音声告知月額利用料100円）

負担となります。

【委員】町内会の公民館が丸抱えするか各戸割にするかは集落の中での判断となると思う。

【委員】既存の有線放送など何もない集落はどうか。例えば一番安い方法はどれか。

【事務局】集落の会員の方がケーブルテレビに加入しておられるのであれば、音声告知端末を購入する方が一番良いと思われます。

【委員】初期費用の部分で個人のところを借りて固定して設置すれば、集落の公民館の初期費用はいらないといことで良いか。

【事務局】そうです。その場合は、固定費用の月額利用料500円もいらない。ただし将来的に有線放送設備は集落が面倒を見ないといけませんし、将来の更新費用は集落で面倒をみる必要があります。雪等で線が切れた時も集落の費用で改修する必要があります。

【委員】完璧に自治会管理となるわけだな。

【事務局】そうです。将来の負担がずっと出てきます。ただし、繰り返し説明いたしますが、必ずしも設置できるということではなく、中継機器が使用出来るかどうかの試験が必要となります。

【委員】補助対象経費の中に非常用電源等の設備の設置経費等というのは何に使うのか。

【委員】停電時のことじゃないか。

【委員】停電の時にはケーブルテレビにも情報は入ってこない。

【事務局】それは有線設備放送のための非常用電源です。仮に停電した時に有線放送だけは使えるようにするためです。

【委員】鳥取市からの放送は受信できないということか。

【事務局】そうです。元々有線放送と地域無線システムは集落の単独放送です。鳥取市の放送は入りません。

【委員】しかし、これが出来れば有効な補助事業である。あえて緊急だけでいいという人はケーブルに入らないことでも良いとしている。

【委員】個別受信器は、全集落の自治会長のところ設置されたか。

【事務局】個別受信器は、設置希望のある集落自治会長等に2台までは設置できます。12月12日に説明した内容は、集落有線放送が元から設置されている集落で、音声告知端末の補助申請をしていた2集落の自治会長に、新たな制度と音声告知専用端末との併用が出来ないため、新しい補助メニューについて説明会を開いたものです。1月20日の自治会総会でも改めて説明をさせていただく予定です。申し出があれば出向いて出前説明に行かせてもらいます。

その他

6 閉会